



2学期始業式講話

校長 長田 芳子

こんにちは

夏休みが終わり、今日、こうして大きな事故もなく生徒の皆さんが無事登校できていることに感謝します。

さて、夏休みはどうでしたか？有意義な休みになったでしょうか。

夏休みに心に残る体験や感動的な映画や本に出会った人、また、新たな自分を発見した人、ひとりひとりの貴重な夏休みが終わりました。

今日から2学期の始まりです。気持ちを学校モードにチェンジして下さい。

今年の夏の{平成最後の夏}の出来事は、なんとといっても「2018 信州総文祭」と甲子園の秋田代表公立高校「金足農業」の大活躍でした。高校生の活躍が、多くの世代の人たちに元気や感動を与えてくれる場面にたくさん出会え、ワクワク、ドキドキを感じる毎日でした。

特に長野県では、47年に1度の信州総文祭が開催されました。8月7日から11日まで、猛暑の中、総合開会式、パレードから始まり28部門が開催されました。私は、総合開会式の公開リハーサルを見に行ったのですが、南高の軽音楽部がフィナーレの場面に登場し、会場全体を盛り上げる演奏をしてくれました。感動的なひと時でした。公開リハーサルでしたので、多勢の観客の方がいらして、「ブラボー」と声をかけている人もいました。

佐久市では文芸部門が開催され、佐久平駅周辺にも、多くのオレンジ T シャツを着た生徒実行委員や担当の生徒・先生が交流センターに集まり、全国各地からの生徒の皆さんをお迎えしていました。大会前には「おもてなし」の対応をするために接遇研修も行ってきた生徒たちです。私は、美術・工芸部門に役員として参加したのですが、全国から選ばれた絵画、彫刻、立体工芸作品などに圧倒され、高校生のレベルの高さやみずみずしい感性に驚きを覚えました。感動の5日間でした。

注目の大会でしたので、終了後の8月17日には、信濃毎日新聞に総文祭実行委員の思いが掲載されていました。生徒実行委員長も副委員長も部会部長もみんな高校3年生です。自分の日々の学習、部活動、進路のことにも取り組みながら、葛藤もしながら、1年生の秋から活動してきた皆さんです。高校生活のすべてを総文祭に使いました、と言っていた生徒実行委員長もいました。

「仲間の姿を見てやり切れた」「今後の夢の実現に向け生かす」「意見をぶつけ合うことができた」「同じ目標に向け頑張った絆は誰にも負けない」と成功させた達成感、充実感とともに終わってしまった喪失感もあるようです。印象深い記事は、総務部会長の、担任に「燃え尽きて灰になってこい」と背中を押され、一つのことにかかわって充実感を味わいました。何事も後悔しないよう「灰になるまで」やり抜く人間になりたいといった言葉です。燃え尽きるまで、やり切ったと思えるまで、精いっぱい何かに向かう高校生の底力に心打たれ敬意を表したいと強く思います。

みんなも同じ高校生です。やらなくちゃいけないから、仕方なくやるのではなく、自ら主体的に意欲的に何事にも取り組んでください。その先には、充実感、達成感、自分をほめてあげたい気持ちが生まれるはずです。期待しています。

暦の上では、「立秋」を過ぎ、今週には「処暑」を迎えます。暑さも峠を越える季節となるはすですが、まだまだ暑さは続くかもしれません。

日の長さ・気温など変化にとんだ長い2学期になると思いますが、一日一日を大切にしていきたいと思います。

以上で始業式のあいさつとします。